

# 2013連合徳島

## ボランティア・サポートチーム 養成講座（第13期生報告集）



日本労働組合総連合会徳島県連合会

## 第13期連合徳島「ボランティア養成講座」修了に寄せて



日本労働組合総連合会徳島県連合会  
会長 河村 和 男

第13期「連合徳島ボランティア・サポートチーム養成講座」修了に際して、貴重な休日を返上して熱心に受講をいただき、又運営等にもご協力をいただいたことに、敬意と感謝を申し上げます。

この「連合徳島ボランティア・サポートチーム養成講座」は、労働組合の果たす社会的役割として、地域の一員であることの自覚を促し、災害時のリーダー育成と組合員のボランティア意識の向上、労働組合としてのネットワークを行かした地域貢献、地域住民とのふれあいの中から共生と協働を確立するための事業として発足し、今年で13年目を迎え、ボランティア・サポートチームへの登録も150人を超える成果を上げてきています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの人命が失われると共に、現在もなお避難生活を強いられている方々が大勢います。また徳島においても、昭和南海地震から60年あまりが過ぎ、記憶も薄れる一方で、今後30年以内には50%を超える確率で、地震が発生することが予想されます。災害予防や災害発生時の対策などの必要性とともに、私たちを含む地域住民の日頃の心構えを学習したり、日頃から、避難や防災訓練などを行っていることが災害時に大きく人命を始めとする地域の安全を左右すると言われています。

火山国であり、地殻変動の上にある日本において、どこかで、有感無感の地震が発生している現状を見れば、決して他人事ではありません。

養成講座では、様々な取り組みの報告や体験談を聞かせていただき、実際の救急措置の講習や体験、避難や防災に関わる図上訓練、などを通じて、防災意識の高揚と災害時の心構えの体得など様々な経験の中で、「参加して良かった」「是非何かの形で役立てたい」などの評価をいただいています。

連合徳島は、引き続き「ボランティア・サポートチーム」による人材育成と防災協力体制の確立について、市民参加と市民との協働で、一層の充実を図ってまいります。

引き続き、ご指導とご協力をいただきますようお願い申し上げますとともに、ご協力いただきました関係諸団体の皆様に感謝を申し上げ、あいさつとします。ありがとうございました。

## 養成講座の開催にあたって

連合徳島ボランティア・サポートチーム

第13期養成講座運営委員会 運営委員長 吉田 耕造

昨年度からボランティア・サポートチーム養成講座の運営委員長を、仰せつかることになりました吉田耕造と申します。私が連合徳島の副事務局長時代に、このボランティア・サポートチーム養成講座がスタートしました。10年余りを経て運営委員長に着任することになり、何か感慨深いものがあります。前任者の藤本恭士さん同様、ご指導・ご協力いただけますようお願いを申し上げます。

さて、第13期ボランティア・サポートチーム養成講座は、6月22日から10月26日の間、講義や実践体験など全6講座を開催し、多くの防災知識の習得と救急救命等の技術の向上を図ることができました。休日開催にもかかわらず、熱心にご参加くださいました受講生の皆様や運営にご尽力いただきました連合徳島及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

近年、東日本大震災をはじめ日本のいたる所で洪水、地震、津波などの大規模自然災害が発生し、多くの尊い命と財産が失われています。

私たちの住む徳島県も決して例外ではなく、南海地震は20年以内に発生する可能性もあるとされています。そして、この地震は、M8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れと、10分以内に津波が襲うことが予想されています。

自然災害をコントロールすることは今の科学では不可能だと思いますが、大規模災害が発生した場合に万全に備え、被害を少なくすることは可能です。

私たち連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後、発生が予想される地震等の大規模自然災害に対して、自分自身や家族を守ることはもとより、地域や職場等において公的な組織や被災者の方々と連携し、避難や救出・救命などの災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることをめざしています。そのためにも、さらなる知識と技術の向上をめざし一人でも多くの方に「ボランティア・サポートチーム養成講座」にご参加いただきますようお願いいたします。

### 第13期ボランティア・サポートチーム養成講座修了者名簿

名 前	構 成 組 織 等	名 前	構 成 組 織 等
旭 トモ子	徳島県病院局労組	川越 敏良	全労済
犬伏 雄人	全農林	北島 佳幸	N T T 労組
井上 嘉久	徳島バス労働組合	木野 綾子	徳島県病院局労組
井元 浩二	N T T 労組	木下 隆弘	N T T 労組
梅本 晋作	N T T 労組	篠原 正勝	徳島県病院局労組
岡川 真紀子	徳島県職員労働組合	田北 光広	全国一般労働組合
兼子 武	徳島バス労働組合	多田 嘉文	J P 労組
金子 眞由美	徳島県病院局労組	原田 俊彦	全国一般労働組合
加納 久則	N T T 労組	山下 健一	徳島県職員労働組合

## 大規模自然災害、連合徳島の果たす役割

兵庫県南部地震、鳥取県西部地震、東日本大震災など、改めて自然の恐ろしさを痛感させる災害が発生しています。

そしてこの一連の地震は、次の南海地震の前触れに相当する内陸地震であり、20年以内に南海地震が発生する可能性もあるとされています。

そして、この南海地震はM8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れが予想され、その上、10分以内に津波が襲う。とされています。

こうした状況をふまえ、徳島県に大規模災害発生した場合を想定する場合、連合徳島の果たす役割は、何か。

※ 構成組織の事業所内の自然災害発生時に備えて取り組むべきマニュアルの提示。

※ 自治体への政策制度要求。

※ 連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動の推進。  
などがあげられます。

特に、3点目の連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動を推進するために、緊急時における連合徳島災害対策本部を設置し、ボランティア救援隊を組織する必要があります。

災害対策本部は連合会長を対策本部長とし、ボランティアの受け入れや組合員の安否確認、情報の収集・提供、など各地協・構成組織と連携しながら、救援センターとしての役割を持つ必要があります。

ボランティア救援隊は、そのリーダーとなるべき人を養成するため、組合員を中心に広く市民から募集し、ボランティア・サポートチームとして日常的に実践的な教育訓練をおこなう必要があります。

## 連合徳島ボランティア・サポートチーム運営要綱

### 趣旨

連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後発生が予想される大規模自然災害に対して連合徳島構成組織、連合徳島各地域協議会、行政と連携し災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることにあります。

また、国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、連合徳島ボランティア・サポートチームを派遣します。

上記の災害救援活動を効率的におこなうために、参加者に教育訓練をおこないます。

### 名称

「連合徳島ボランティア・サポートチーム」とします。

## 登録

参加登録を希望する方は、連合徳島に登録されます。

## 脱退

次の場合は登録を取り消します。

- ① 本人の希望により取り消すとき
- ② 対象者の条件に合わなくなったとき

## 派遣

徳島における災害発生時のサポートチームの派遣は、連合徳島災害対策本部の設置と同時に派遣出動体制を確立します。

国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、派遣要請がおこなわれます。

## 活動

サポートチームの活動内容は、教育訓練により会得した対応能力に応じた支援活動とします。

徳島における災害時の活動は、支援ボランティアの受け入れや調整、各種の生活支援活動とします。

国内での災害時の活動は、地方連合会や行政と連携し、支援をおこなうこととします。

## 教育・訓練

登録メンバーは、知識と技術向上のため、別に定めるカリキュラムに従い教育・訓練をけることとします。

## 保険

登録メンバーは、「ボランティア保険」に加入することとします。

## 事務局

連合徳島ボランティア・サポートチームの事務局は次の場所に設置します。

〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館内

日本労働組合総連合会徳島連合会

TEL 088-655-4105 FAX 088-655-4113

E-MAIL

[info@tokushima.jtuc-rengo.jp](mailto:info@tokushima.jtuc-rengo.jp)

## 第13期（2013年）ボランティア・サポートチーム養成講座カリキュラム

	開催日	時間	講座内容	講師等	場所
1	6月22日 土	14時00分～	開講式・オリエンテーリング 一般救命講習 (心肺蘇生法、AED)	徳島市東消防署	徳島市東消防署
2	6月29日 土	15時00分～	実践体験・救急法 担架搬送・ロープワーク 止血法	徳島市東消防署	徳島市東消防署
3	7月27日 土 ～28日 日	12時30分～ 10時30分	野外活動 木工教室・植林等 「連合の森」 親子サマーキャンプ	森林管理署 森林労連等	美馬市木屋平 中尾山「平成荘」
4	8月10日 土	13時00分～	防災体験・講演 「来るべき大震災に備えて」	兵庫県広域防災センター	兵庫県三木市 広域防災センター
5	9月14日 土	10時00分～	講演 「災害ボランティア センターの役割」	徳島県社会福祉協議会	労働福祉会館502
6	10月26日 土	9時30分～	炊き出し講習 修了式	連合徳島	徳島市昭和町 コミュニティ センター

## 第13期（2013年）ボランティア・サポートチーム養成講座報告

### ■6月22日（土）開講式・第1講座「一般救命講習」

開講式・第1講座は、徳島市東消防署で開催し、構成組織等から32人が参加。

開講式では連合徳島・森本国民運動局長から「災害時のリーダー育成と組合員の意識の向上、労働組合としてのネットワークをいかした地域貢献、などを軸に発足した本講座も今年度で13期を迎え、これまで150人を超える修了生を排出し、ボランティアサポートチームへの登録が行われ成果をあげている。東日本大震災をはじめとする大災害、徳島においては南海地震が、今後30年以内には50%を超える確率で発生することが予想される。災害予防や災害発生時の対策、そして災害時の心構え、ボランティアサポートチームによる人材育成と防災協力体制の確立について、市民参加と市民との協働で、一掃の充実を図っていきたい」とあいさつ。続いて、昨年度から運営委員長を務めることになった連合徳島・吉田執行委員から、養成講座を起ち上げた経過や意義について、あいさつを受けた。

一般救命講習では、心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の使い方などについて、東消防署署員から説明を受けた後、グループに分かれ、実際に訓練用の人形を使い、実践しながらの人工呼吸・蘇生訓練を行った。また、AEDの使用についてもわかりやすく指導を受けた。

受講生からは、「慣れない訓練（実技）に悪戦苦闘したが、緊急時の対応の仕方について大変参考になった」との声も出された。



## ■6月29日（土）第2講座「実践体験」

第2講座は、第1講座で学習した「一般救命講習」を踏まえたステップ講座で、31人が参加した。

徳島市東消防署署員の指導のもと、日常生活や緊急時にも利用できる三角巾を使用しての止血法や骨折時の固定の仕方、ロープワーク（まき結び、もやい結び）、などを訓練。

参加者は、ロープワークの難解さに戸惑いながらも、徳島市東消防署署員の親切丁寧な指導と参加者間で教え合いながら何とか体得した。

また毛布や衣服を使った担架搬送訓練も学習した。



## ■ 7月27日（土）～28日（日）第3講座「野外活動・連合の森」



地球にやさしいエコ・ユニオンをめざす連合徳島は、7月27日～28日の2日間、美馬市木屋平の中尾山・平成荘で、「連合の森・親子サマーキャンプ」を開き、連合徳島組合員とその家族ら86人（大人51人・子ども35人）が参加した。

開会オリエンテーリングは体育館で行われ、主催者を代表して、連合徳島国民運動局長・森本副会長のあいさつと、徳島森林管理署・堀署長、地元美馬市から藤本総合支所長からあいさつを受けた。

その後、昼のイベントとして、木材を利用し時計を作成する「木工教室」と「遊歩道ウォーキング」を同時並行で行った。

「木工教室」は子どもを中心に参加し、まず最初に徳島森林管理署の職員から森林について説明を受けた後、杉の間伐材にどんぐりや木の枝などをボンドで付けたり、自分の名前や絵を描いたり親子で熱中し、それぞれオリジナルの時計を完成させた。

「遊歩道ウォーキング」ではアップダウンの激しい山道に悪戦苦闘しながらも、3時間掛けてウォーキングを行い、自然を満喫し樹木の鹿被害についても見学した。

17時からの夕食バーベキューは8班に分かれて炭を熾し、昼間に心地よい汗をかいたこともあり、子どもたちの食欲も旺盛で肉・野菜・ソーセージ・おにぎり等を食べて、大人たちもアルコールを飲みながら交流を深めた。

2日目は、朝食後に2006年に美馬市の協力のもとできた「連合の森」へ車で移動。植林の仕方についてレクチャーを受けた後、これまで植林



してきた木の成長を確認し、防護ネットの修繕を行った。その後、徳島森林管理署、県林務職員（県職労）の指導のもと、家族・グループ毎に50本の苗木（コナラ）を植林するとともに、鹿対策の防護ネットも取り付け、大きく成長することを願って名札を埋め込んだ。



2日目は雨に降られたものの、概ね2日間とも好天に恵まれ、徳島森林管理署をはじめ林野労組、県林務職員（県職労）など、多くの参加者と地元美馬市の協力をいただき、標高1,050メートルのすばらしい環境のもと、けが人もなく親子サマーキャンプを終了することができた。



## ■ 8月10日（土）第4講座「防災体験・講演：来るべき大震災に備えて」

ボランティアサポートチーム養成講座「第4講座：防災体験・講演」を8月10日、兵庫県淡路市・三木市で開き25人が参加した。

第4講座では、午前中に淡路市の北淡震災記念公園を視察。1995年に発生した阪神淡路大震災で出現した野島断層を見学するとともに、当時被災された語り部から、当時の状況や防災教育の徹底、日常生活における人間関係の大切さについて講演を受けた。

午後は三木市の兵庫県広域防災センターに移動し、センター防災教育専門員から「巨大地震から命を守るために、臨機応変な対応を」と題した講演を受け、災害救助法の改正や災害対策基本法など自然災害にかかわる法律についてレクチャーを受けるとともに、阪神淡路大震災や東日本大震災を教訓にした対応策などについて説明を受けた。講演後、煙避難体験や放水訓練、地震体験、家屋に下敷きになった人を救助する訓練等を行った。



## ■ 9月14日（土）第5講座「講演：災害ボランティアセンターの役割」



9月14日、労働福祉会館でボランティアサポートチーム養成講座・第5講座を開催し、各構成組織から25人が参加した。

第5講座は、「災害ボランティアセンターの役割」をテーマに、徳島県社会福祉協議会の重松さんを招き、大規模自然災害が発生した後、社会福祉協議会が中心となって運営している、災害ボランティアセンター運営やボランティア活動について講演を受けた。

重松さんは、ボランティア活動の起源や留意点、ボランティアセンターの役割について、活動風景の写真も交えながら説明を行った。

連合徳島としては、ボランティアサポートチーム養成講座開始から13年を迎え、これまで300人を越えるスキルを持った受講生を排出していること、そのスキルを持った受講生を、災害地に派遣し、活動・活躍できる場を提供できないか、県や県社協と連携を図りながら、体制作りも含め、議論を展開していくこととしている。



## ■ 10月26日（土）第6講座「炊き出し講習」

10月26日、徳島市の昭和コミュニティセンターにおいて、第6講座（最終講座）を開き、各構成組織から28人の受講生が参加した。

第6講座（最終講座）は炊き出し講習を行い、ポリ袋で作る非常食を作った。非常食は、カレーライスとポテトサラダの2食。講師は聯合徳島の藤原書記が務めた。

受講生は、4班（7人づつ）に分かれ、カレーライスとポテトサラダを調理。野菜の下ごしらえから、材料の仕込みなど協力し合い、悪戦苦闘しながらも1時間30分で完成させた。講習に参加した受講生からは、「このような調理の仕方があるとは知らなかった」「この調理方法は緊急時に役に立つ」「これまで料理したことがなかったが、いい経験ができた」などの声が出された。

講習終了後、修了式が行われ、聯合徳島の齋藤事務局長が「現在、連合としてボランティアプロジェクトを起ち上げ、災害発生時にボランティア活動に参加していただく要綱づくりに取りかかっている。この養成講座を通じ災害救助のスキルを身につけていただきたい。来年以降も充実したカリキュラムとなるようご意見もいただきたい」とあいさつ。その後、修了証書が受講生に手渡され、18人に交付された。



第13期連合徳島ボランティア・サポートチームの記録  
〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館6F

日本労働組合総連合会徳島連合会

t e l 088-655-4105

f a x 088-655-4113

e-mail [info@tokushima.jtuc-rengo.jp](mailto:info@tokushima.jtuc-rengo.jp)

